

おもシロ！城郭つうしん 第4回

「村瀬家文書いなとみりゅう稲富流の謎」

10月1日から松本城天守2階に「文字が象がんにされた小筒」を展示してあります。「一夢」と刻まれた火縄銃で、「一夢」とは日本で一番古い砲術とされる稲



富流を完成させた「稲富一夢」のことを示しています。なぜそれがわかるかといいます

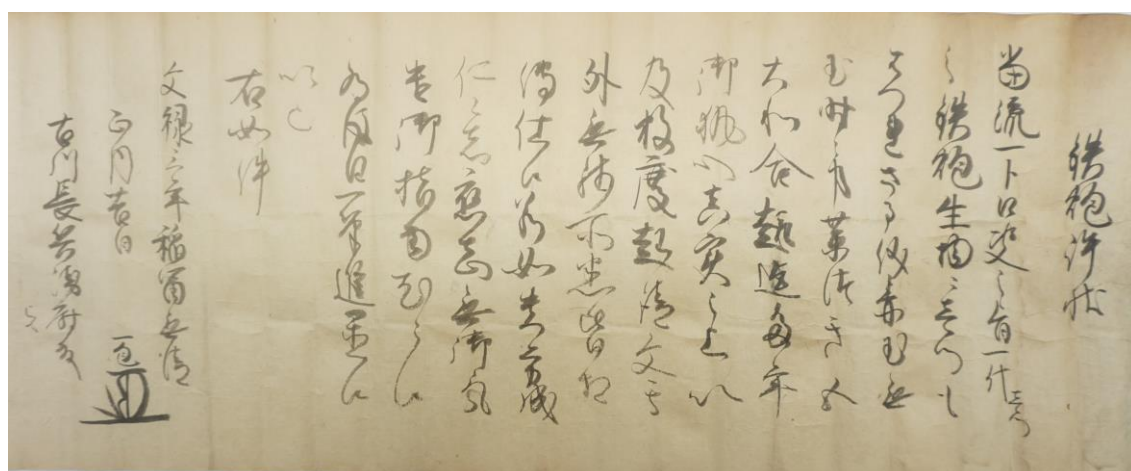
稲富一夢
長

と、「一夢」の下に書かれた花押かおうの形から判断ができるのです。

この火縄銃は稲富流で使う銃の特徴がないのですが、江戸時代に稲富一夢にあこがれて象がんにされたのでしょうか。それほど稲富流は一流の

砲術でした。

この砲術が松本平でも受け継がれていたことが、松本城所蔵の村瀬家文書からわかります。その中でとっておきの文書を紹介します。



鉄砲許状

私の砲術は一代に一分口決めて伝えてきたことについて、長い年月心をひかれていたことをじゅうぶんに認め、何度も誓いの手紙など残すところなくみんなお伝えしました。もしほかにあなたのようなひとがいたら、そのころざしにこたえて砲術を伝えます。後の日のためにこの手紙を書きます。

文禄三年（一五九四） 稲富無清

正月吉日 一包（花押）

古川長兵衛尉殿

まいる

この文書は砲術を伝える者として認めたもので、認めた人物は稲富無清^{いなとみむせい}、認められた人物は古川長兵衛尉^{ふるかわちやうべいのじやう}です。そして伝えられた砲術は稲富流と考えられます。古川長兵衛尉が稲富流の教えにもとづいて一生懸命に修行をしたのでしょうか、伝承者として認められています。また、今後同じような人が現れたらそのころざしのおり砲術を伝えることを誓っています。

注目されるのは稲富無清という人物です。稲富を名のっていることから一夢と関係がある人と思われませんが、今のところ村瀬家文書だけに見られる名前です。一夢の父親には砲術が伝えられていません。また、一夢には子供がいません。

今のところ無清は謎の人物です。調べる意欲がわいてきます。